

2014年9月9日 全8頁

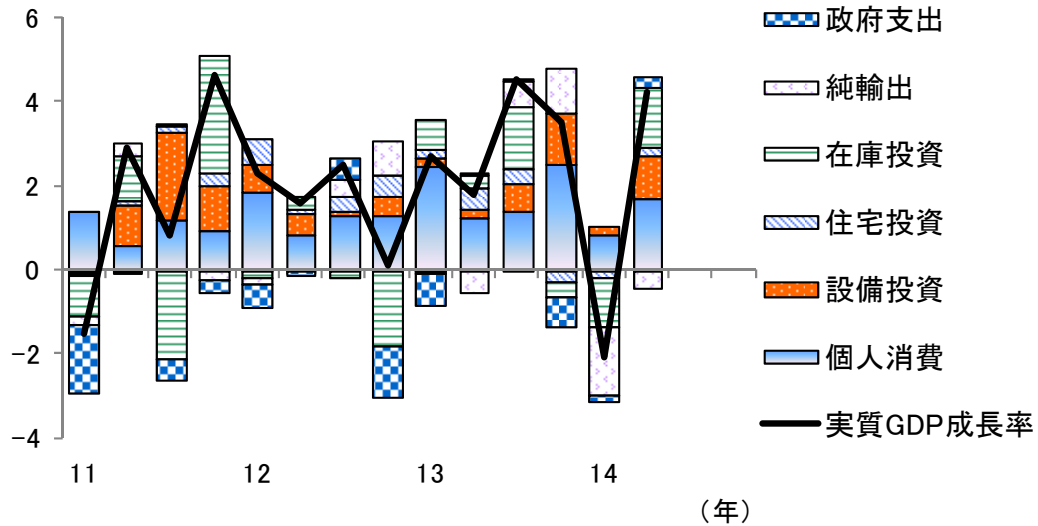
# アメリカ経済グラフポケット(2014年9月号)

2014年9月8日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美  
シニアエコノミスト 土屋 貴裕

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



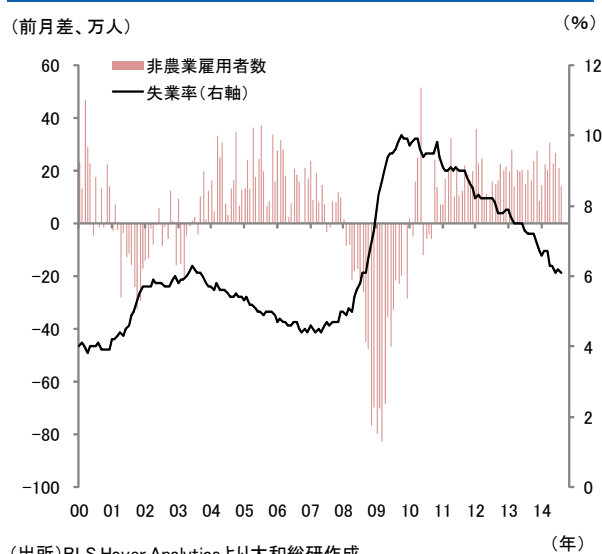
(前期比年率、%、%pt)	2012		2013				2014	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	2.5	0.1	2.7	1.8	4.5	3.5	-2.1	4.2
個人消費	1.9	1.9	3.6	1.8	2.0	3.7	1.2	2.5
設備投資	0.8	3.6	1.5	1.6	5.5	10.4	1.6	8.4
住宅投資	14.1	20.4	7.8	19.0	11.2	-8.5	-5.3	7.2
政府支出	2.7	-6.0	-3.9	0.2	0.2	-3.8	-0.8	1.4
輸出	2.1	1.5	-0.8	6.3	5.1	10.0	-9.2	10.1
輸入	-0.6	-3.5	-0.3	8.5	0.6	1.3	2.2	11.0
寄与度								
個人消費	1.3	1.3	2.5	1.2	1.4	2.5	0.8	1.7
設備投資	0.1	0.4	0.2	0.2	0.7	1.2	0.2	1.0
住宅投資	0.4	0.5	0.2	0.5	0.3	-0.3	-0.2	0.2
在庫投資	-0.2	-1.8	0.7	0.3	1.5	-0.3	-1.2	1.4
政府支出	0.5	-1.2	-0.8	0.0	0.0	-0.7	-0.2	0.3
輸出	0.3	0.2	-0.1	0.8	0.7	1.3	-1.3	1.3
輸入	0.1	0.6	0.0	-1.4	-0.1	-0.2	-0.4	-1.7

(出所) BEA, Haver Analytics より大和総研作成

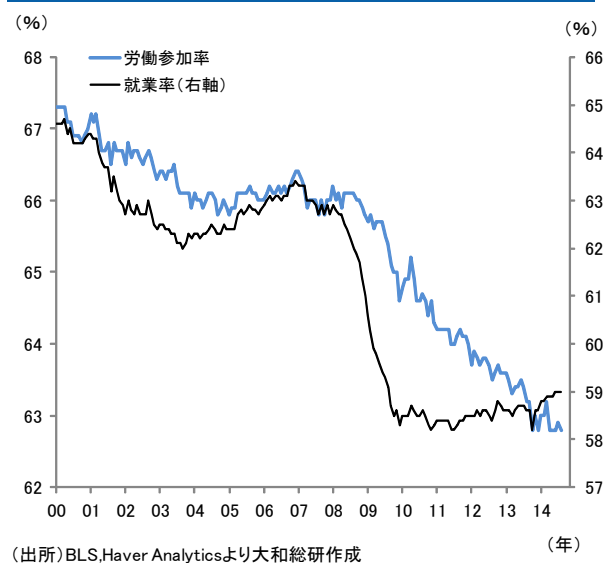
## 雇用環境<sup>1</sup>

- ◆ 8月の失業率は6.1%と前月から0.1%ポイント低下した。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差14.2万人増であった。1月以来初めて20万人を下回り、今年最低の伸びとなった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は22.6万人増であった。

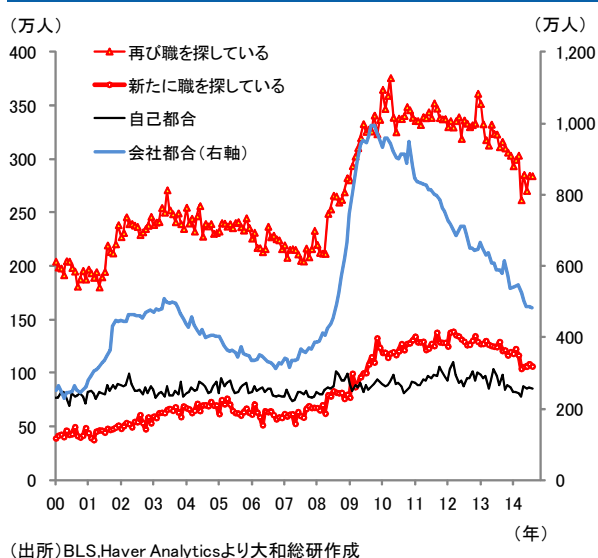
### 非農業雇用者数と失業率



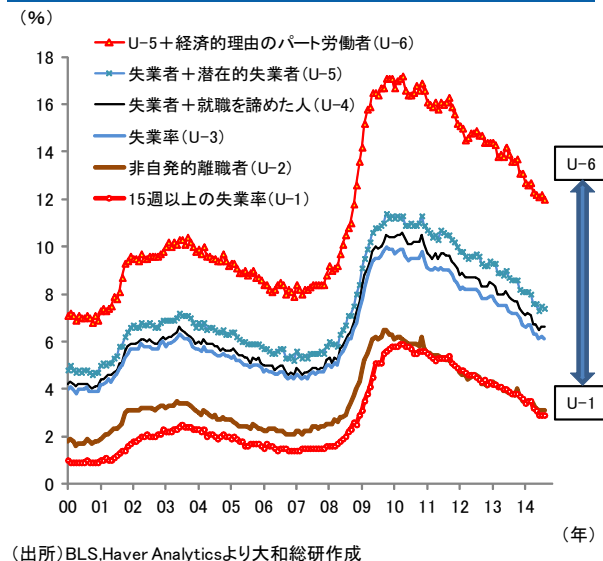
### 労働参加率と就業率



### 理由別失業者数



### 定義別失業率

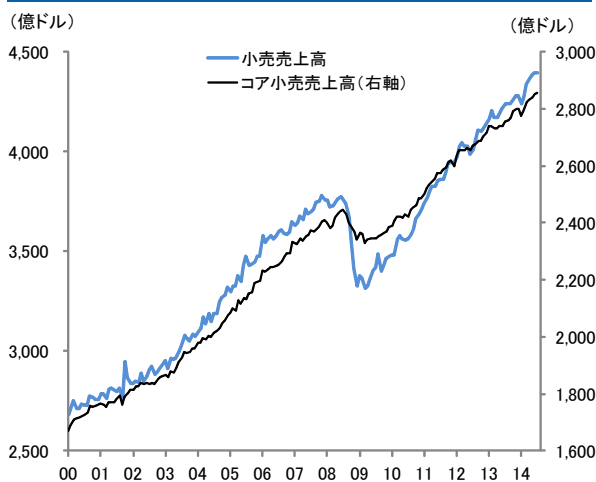


<sup>1</sup> 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 土屋貴裕「米雇用者数の増加幅の鈍化は一時的だろう」(2014年9月8日) 参照。 [http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20140908\\_008918.html](http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20140908_008918.html)

## 個人消費

- ◆ 7月の小売売上高は前月と同水準であり、コア小売売上高は同0.1%増であった。2014年2月から消費の増加傾向が続いていたが、減速した。
- ◆ 8月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の81.8から82.5に上昇した。
- ◆ 8月の自動車販売台数は前月比6.4%増で、年率換算では1,753万台であった。販売台数が1,700万台を超えたのは、2006年1月以来である。

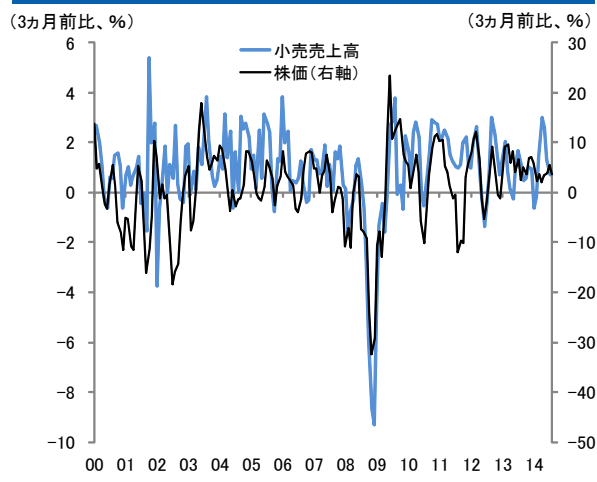
### 小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸除く。 (年)

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

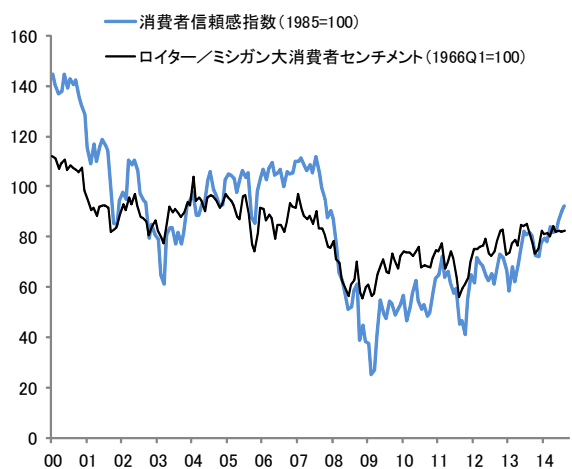
### 消費と株価



(注) 株価はWilshire5000。

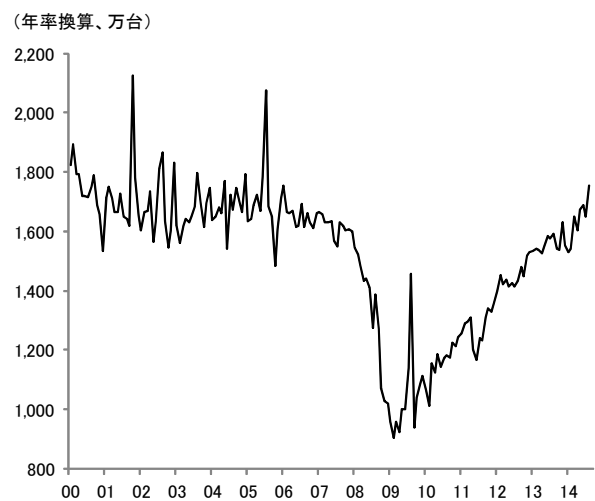
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

### 消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成 (年)

### 自動車販売台数

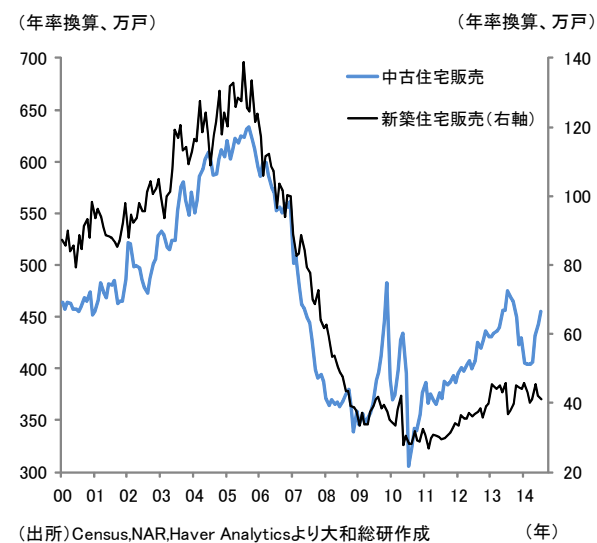


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

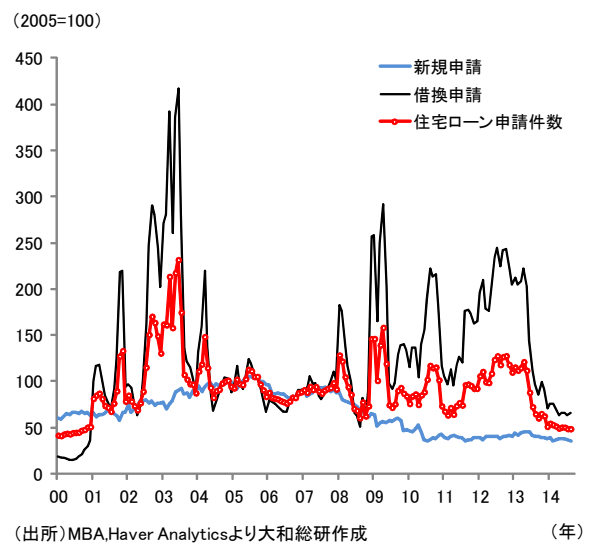
## 住宅市場

- ◆ 7月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は前月比15.7%増と大幅に増加し、年率換算で109.3万戸であった。3ヵ月ぶりの増加であり、2013年11月以来の高水準となった。
- ◆ 7月の中古住宅販売（一戸建て）は前月比2.7%増で、年率換算455.0万戸であった。4ヵ月連続で増加し、2013年9月以来の高水準となった。
- ◆ 7月の新築住宅販売（一戸建て）は前月比2.4%減となり、年率換算で41.2万戸であった。2ヵ月連続の減少となった。
- ◆ 6月の住宅価格は、緩やかな上昇傾向が一段落した。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比で僅かに低下した。

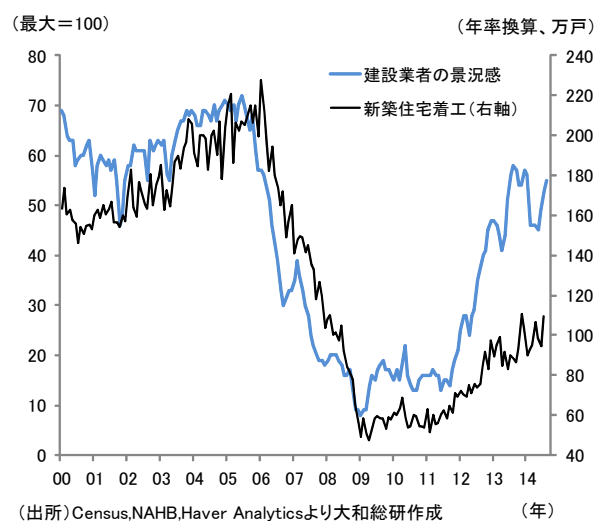
### 住宅販売（一戸建て）



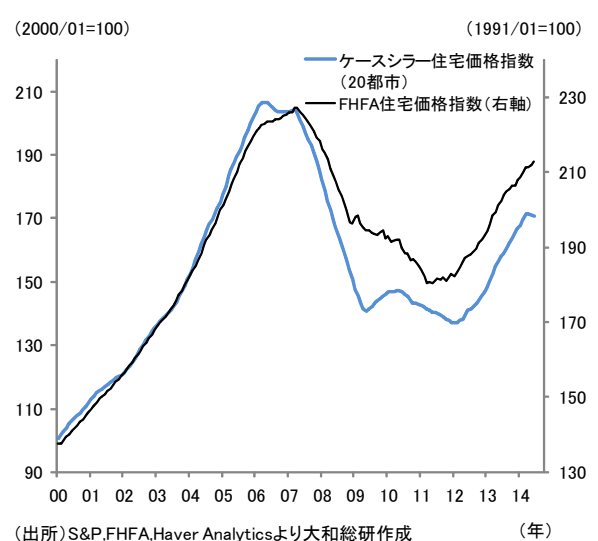
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者の景況感



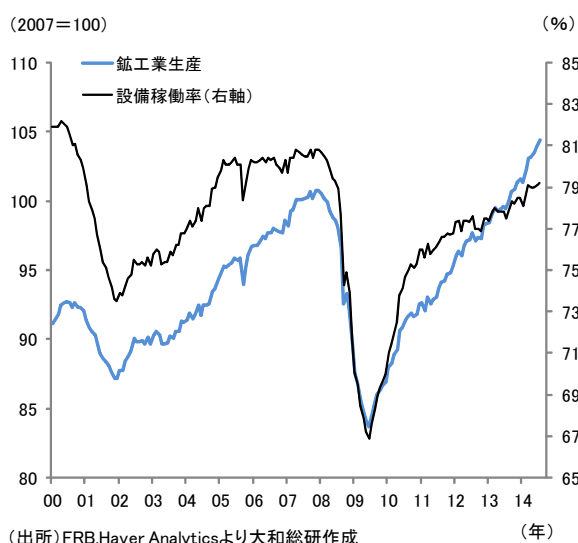
### 住宅価格



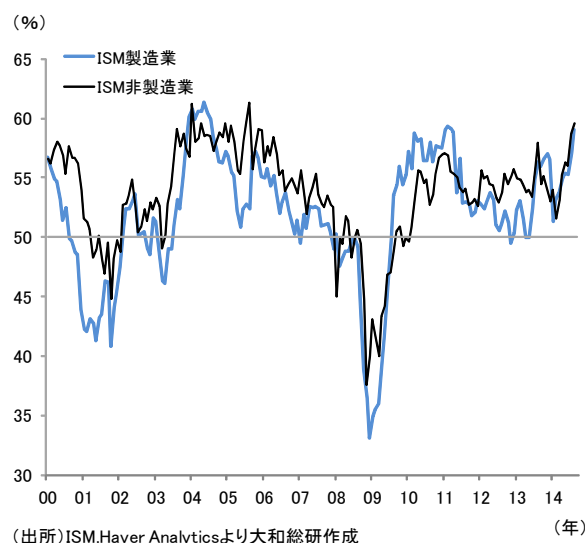
## 企業動向

- ◆ 7月の鉱工業生産指数は前月比0.4%上昇し、6ヵ月連続の上昇となった。指数全体の約75%を占める製造業は同1.0%上昇し、2月以来最大の上昇幅となった。自動車・部品の製造が好調であったことが起因した。
- ◆ 7月の国防・民間航空機を除く資本財受注は減少に転じ、前月比0.7%減であった。
- ◆ 8月のISM製造業指数は前月比1.9%ポイント上昇し、2011年3月以来の高水準である59.0であった。新規受注が大幅に増加し、全体の指標を押し上げた。非製造業指数も同0.9%ポイント上昇の59.6で、2005年8月以来の高水準となった。

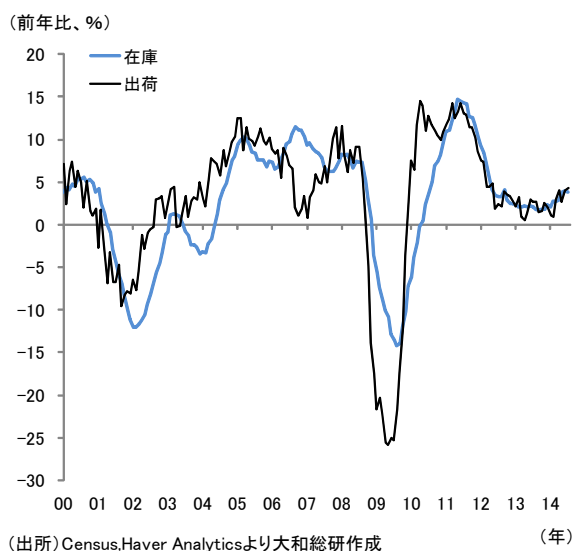
### 鉱工業生産と設備稼働率



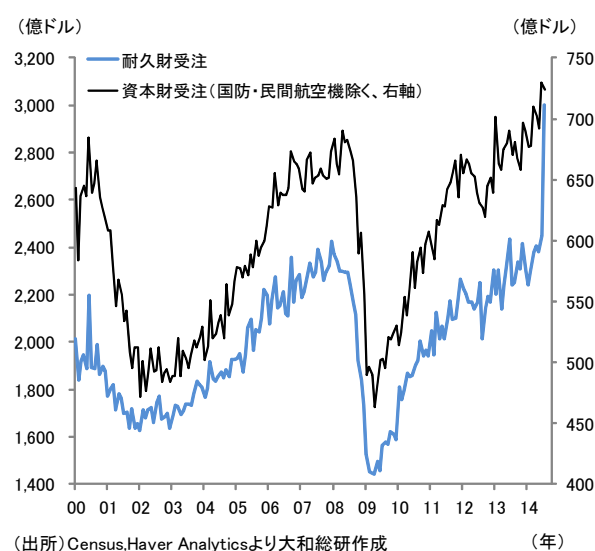
### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



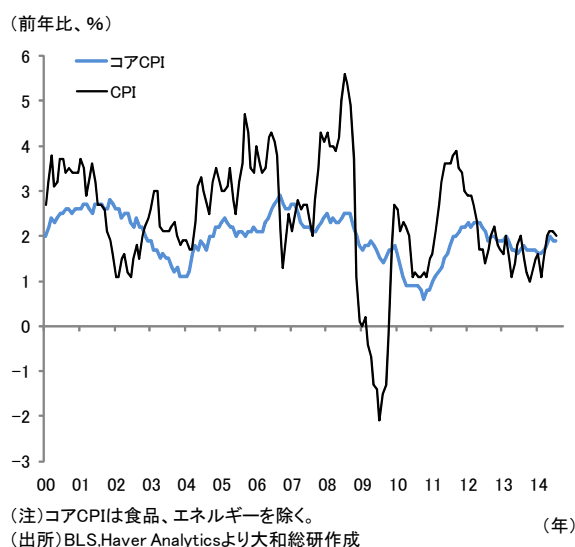
### 耐久財受注



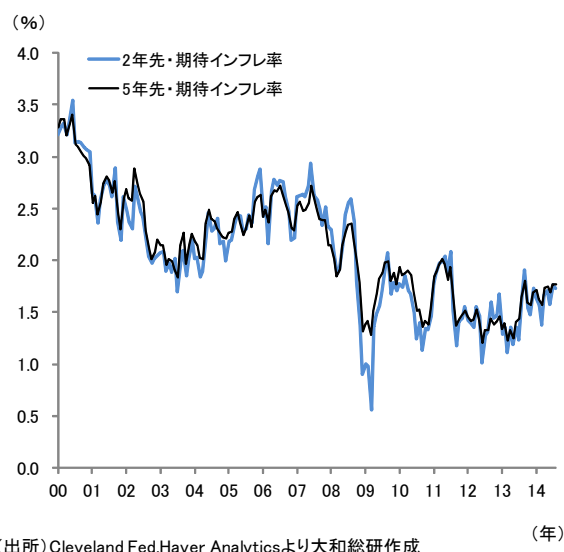
## 物価動向

- ◆ 7月のCPI（消費者物価指数）は前年比2.0%増で、コアCPIは同1.9%増であった。両指数ともにFRBの長期目標レンジにある。
- ◆ 8月の2年先及び5年先期待インフレ率はほとんど変化がなく、ともに安定した推移が続いている。
- ◆ 8月末のWTI原油先物価格は95.96ドル/バレルと、7月末の98.17ドル/バレルから下落した。様々な国際情勢の懸念が続くも、国内における原油の供給増加や、価格高騰につながる大型ハリケーンがなかったことなどが、価格の下落に影響している。

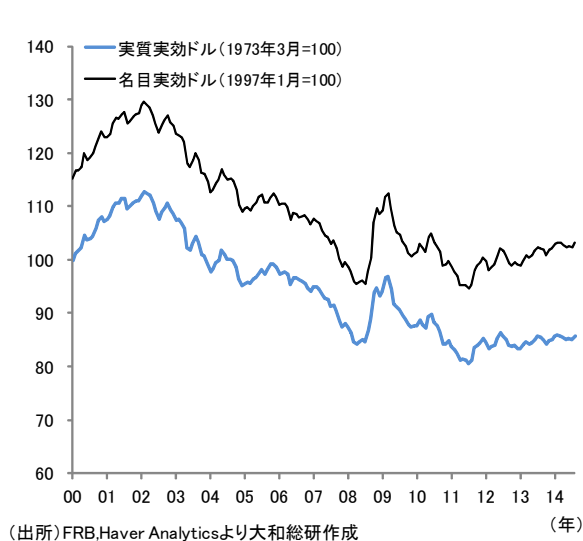
### 消費者物価指数



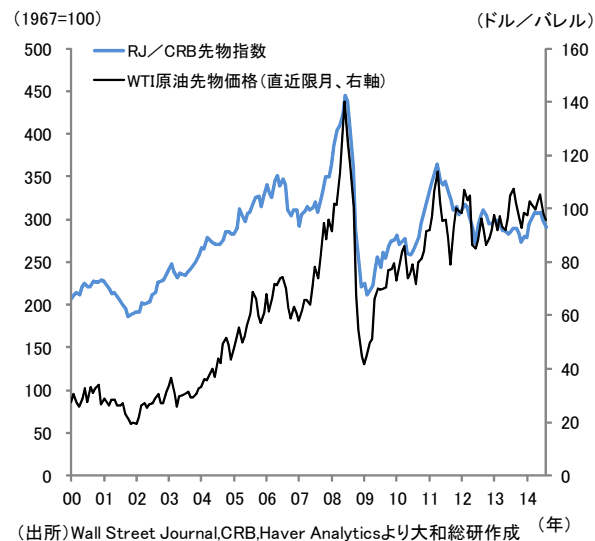
### 期待インフレ率



### 実効為替レート(ブロード)



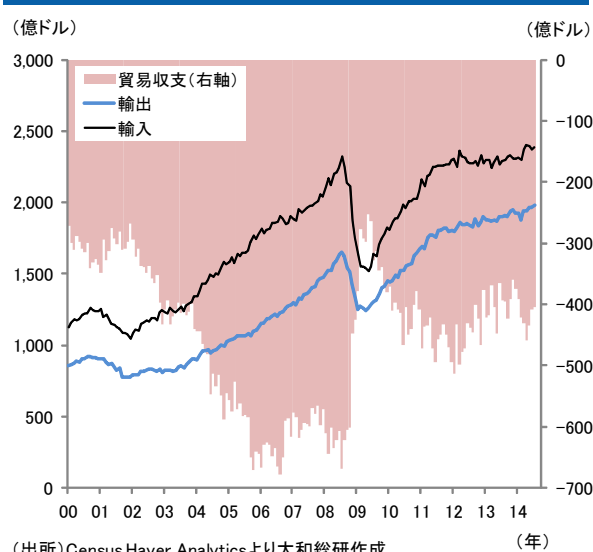
### コモディティ価格



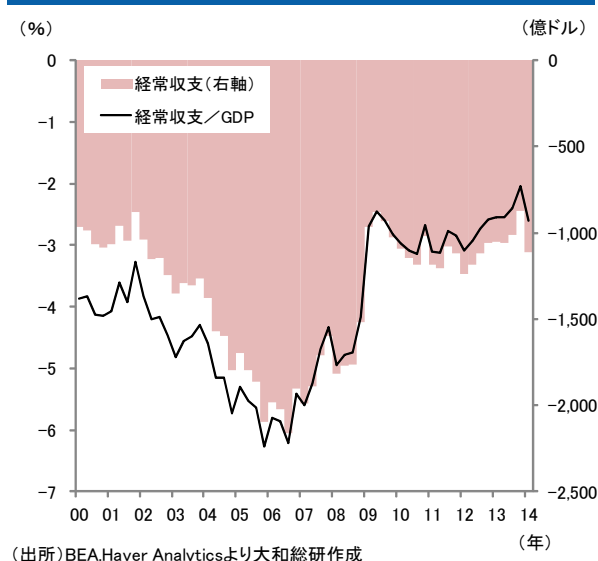
## 輸出入・経常収支

- ◆ 7月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.9%増加し、輸入も同0.7%増加した。輸出においては、自動車・部品・エンジンの輸出が好調であった。一方、輸入は、食品・飼料・飲料が増加した。貿易収支の赤字は前月比0.6%減の約405億ドルで、1月以来の低水準となった。
- ◆ 地域別（財）では、中国、日本、欧州向けの輸出が前年から増加し、それぞれ前年比6.5%増、同5.4%増、同5.3%増であった。輸入は、欧州からの輸入が前年比4.6%増、中国からの輸入も同3.5%増加した。しかしながら、日本からの輸入は不調が続き、同2.7%減少し、10ヵ月連続で前年比マイナスとなった。

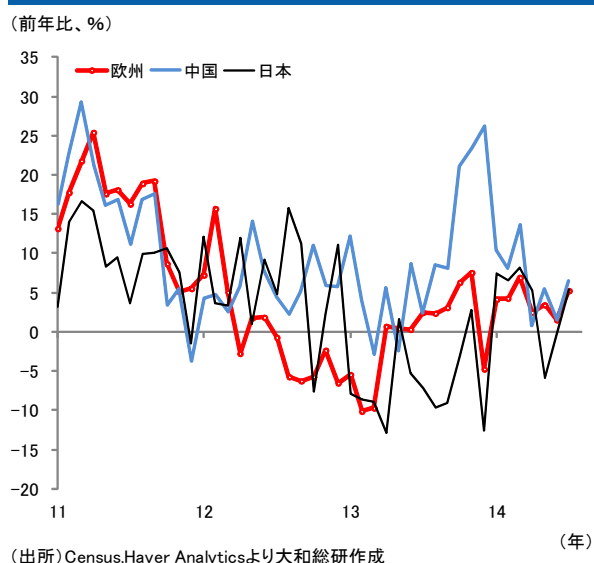
### 貿易収支動向



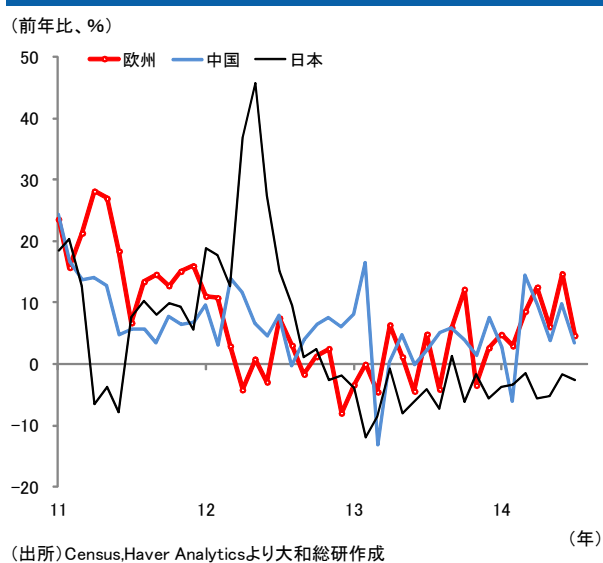
### 経常収支の推移



### 国・地域別輸出動向



### 国・地域別輸入動向



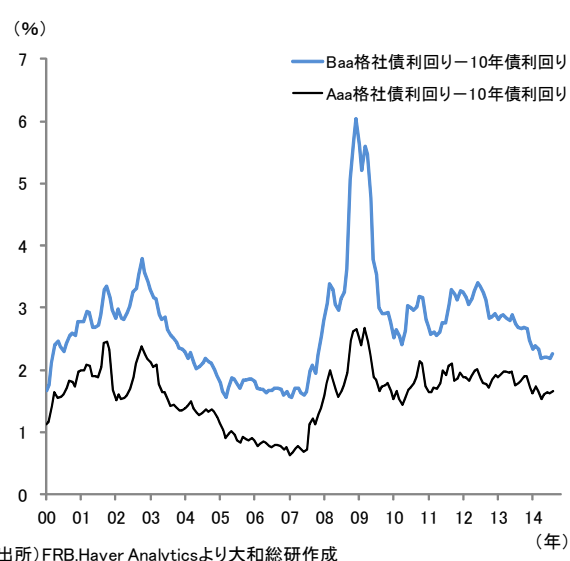
## 金融・財政

- ◆ 8月の長期金利（10年債利回り）の平均値は更に下がり、2.42%であった。2013年6月の平均値以来の最低水準である。継続する世界情勢に対する懸念と世界経済の失速、欧州中央銀行による金融刺激策の実施見通しなどから、国債価格が持ち直し、長期金利が低下傾向にある。
- ◆ 7月のFOMCにおいて、QE3（量的緩和第3弾）の縮小が発表され、8月からの毎月の資産買い入れ額は100億ドル減少し、250億ドルとなった。FRBの資産残高はQE3を受けて増加が続いており、直近の9月3日の週平均が約4兆4,600億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅の縮小が続いている。

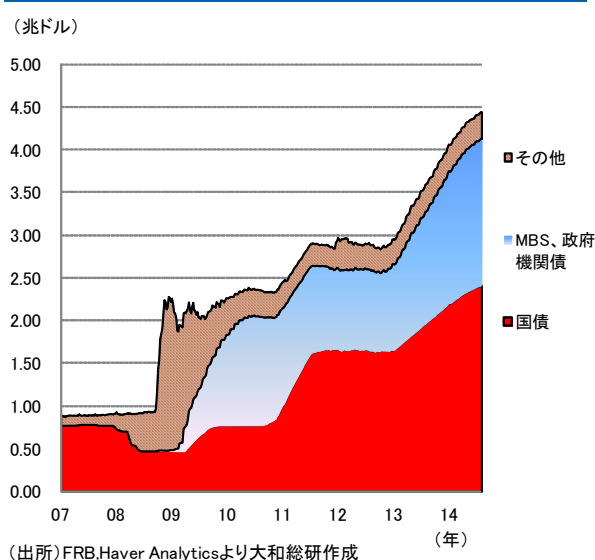
### 政策金利・長期金利



### クレジットスプレッド



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支

